

平成 29 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2017

講座名・職名 Course Title・Job Title	日本語日本文化教育センター・准教授
氏名 Name	水野 亜紀子
専門分野 Academic Field	日本近代文学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	①樋口一葉の作品研究 ②女性作家における師弟関係について
<p>①今年度は樋口一葉「大つごもり」（初出は明治二十七年十二月『文学界』）を取り上げた。作品の読解を通じて、当時の女性をめぐる状況について考察することを目指した。その成果の一部として、樋口一葉研究会・第30回例会（2017年6月3日、於駒澤大学）において「「大つごもり」—お峯の「口惜しさ」について—」と題した口頭発表を行った。「大つごもり」の先行研究には、貧困の問題に着目しながら〈弱者〉としての主人公について論じるものがある。それに対して、本研究では登場人物の発言行為そのものに注目しながら、意見を聞き入れられない者としての〈弱者〉の問題を、貧困の問題と切り分けて論じた。本作には主人公の申し出が重く受け止められない様子、主人公が言いたいことをなかなか口に出せない様子が描かれている。これは明らかに貧困の問題とは別の問題である。申し出を重く受けとめられないという主人公の状況は、言わばありふれた状況であり、仕方のないことであるとみなされ、取り上げられにくいものであったに違いない。皆で考えたり共有したりすべき問題としてはこれまで意識されてこなかったものであろう。しかし、〈弱者〉とはこのような問題を抱える者も含まれるのではないかという問題提起を行った。主人公は盗みについて申しひらきをする覚悟をしていたが、作品末尾においてその機会は失われている。救いが描かれていながら、本当の意味では救われていない主人公を描くことで、末尾ではこの問題の深刻さが示されていると結論付けた。本作には同時代の切実な社会問題が反映されているが、その一方で、素朴で普遍的な問題もまた取り上げられていることを指摘した。</p> <p>②明治・大正期の女性作家が作家デビューを果たす際、師から受けた指導内容がどのようなものであったか、また、師によって作家の作品がどのように世に送り出されたか、その際どのように紹介されたか等に注目して、当時の女性に対する意識や女性をめぐる社会状況について考察していった。野上弥生子、田村俊子を対象として分析を行った。この研究は来年度も引き続き行う予定である。</p>	